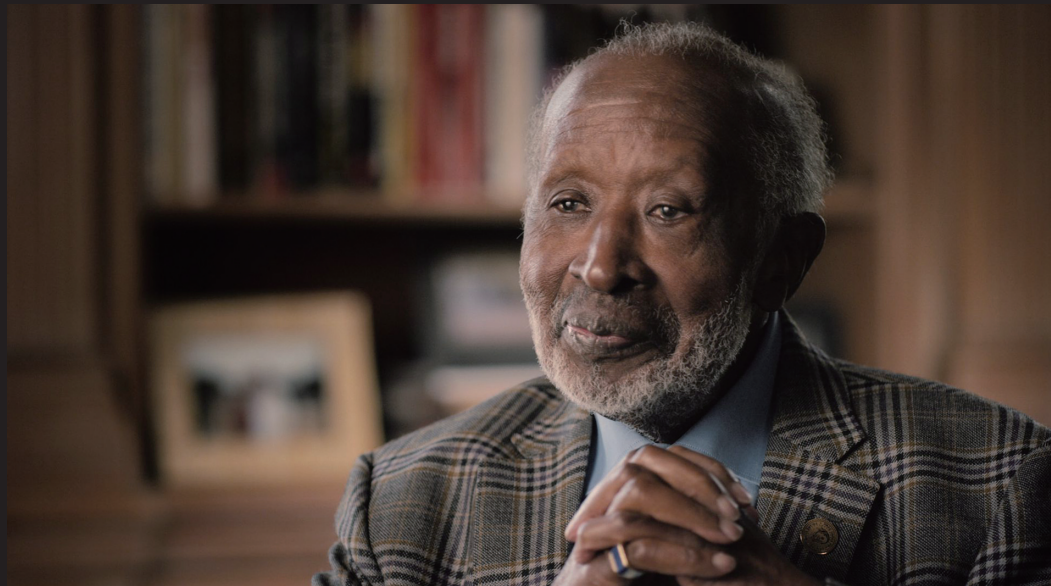


Special Feature

【R.I.P.】Clarence Avant 【追悼特集】クラレンス・アヴァント



写真：Netflix 映画『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』独占配信中

今号の巻頭特集は、2023年8月13日に米国ロサンゼルスにて、92歳で逝去した“ブラック・ミュージックのゴッドファーザー”、“伝説の音楽プロデューサー”、“音楽業界の異端児”と称されたクラレンス・アヴァントの追悼特集。マネージャー、レーベルオーナー、数々のアーティストの成功に貢献しただけでなく、2019年にレコーディング・アカデミーによってグラミー賞アイコン・アワードを授与され、2021年にはロックの殿堂入りを果たした。

音楽、エンターテインメント、スポーツ、政治の世界で“ブラック・ゴッドファーザー”として親しまれ、あのオバマ元大統領も称賛していた人物で、今年10月7日にはハリウッド・ウォーク・オブ・フェイムに星が刻まれる予定だ。2019年に公開され、Netflixで独占配信中の映画『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』で、その人生と生き様が垣間見れる。必見です！

(The Walker's 加瀬正之)

【Black Godfather with Jazz】

1950年代に音楽ビジネスの世界に入ったクラレンス・アヴァントにとって、ボスの存在だったのが、『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』にも登場する1935年から1969年までルイ・アームストロングの音楽マネージャーを務めたジョー・グレイザーだ。グレイザーのもとアヴァントは、ジャズ・シンガーのダイナ・ワシントン、ジャズ・ピアニストのウイントン・ケリー、ジャズ・トランペッターのフレディ・ハバード、ジャズ・トロンボーン奏者のカーティス・フラー、ジャズ・オルガン奏者のジミー・スミスの他、ジャズ・プロデューサーのクリード・テイラー等をマネジメントした。そして、グレイザーの指令のもと、ジャズ・トランペッターのディジー・ガレスピーのバンドでピアノを弾いていたラル・シプリンをカリフォルニアに送り、映画の世界で作曲家として活躍させた。100本以上の映画作品の楽曲を手掛けたラル・シプリンの活躍を通じて、アヴァントは音楽出版、著作権ビジネスを学んだ。



【Black Godfather with Joe Glaser】

クラレンス・アヴァントを音楽業界に引き込んだジョー・グレイザーは、マネージャー／エージェント／音楽事務所経営者として、ルイ・アームストロングを世に出しただけでなく、デイヴ・ブルーベック、デューク・エリントン、サラ・ヴォーン、ビリー・ホリデイ等、数多くのジャズ・アーティストを育てた。グレイザーはタフな男だったそうで、当時のギャングの大物として有名だったアル・カポネの手下だったと語られている。当時のジャズ・クラブの経営にはギャングとの繋がりが欠かせなかった時代だったようだが、アヴァントは「アル・カポネの怖さなど若い私には分からない」「何も怖くなった」と語っているが、グレイザーにはけて逆らわなかったようだ。

【Black Godfather with SUSSEX, Tabu, Motown & Stax】

1970年にロサンゼルスを拠点とするレーベル、サセックス(SUSSEX)・レコードを設立したクラレンス・アヴァント。サセックスという社名は人間の2つの欲望「サクセス」と「セックス」を文字で名付けられた。契約するアーティストもアヴァントが決め、最初にデニス・コフィーを売り出した。当時最盛期だったモータウン・レコードを追従することなく、あえて白人ミュージシャンを売り出すという型破りな試みを行ったが、元々飛行機の機械工で、後にグラミー受賞アーティストとなるビル・ウィザーズも発掘した。ビル・ウィザーズはアヴァントのことを「彼は人と人を引き合わせる才能を発揮させる」「人脈だけを使って生きてきた」と語り、「私の人生を変えた男だ」とも明言している。1975年にタブー(Tabu)・レコードを立ち上げ、S.O.S.バンドやシェレルを売り出し、ザ・タイムのメンバーだったジミー・ジャム&テリー・ルイス＝ジャム&ルイスにプロデュースを任せた。ジャム&ルイスはジャネット・ジャクソンをプロデュースし、1987年にグラミー賞を受賞した。その受賞スピーチで「特別な人に感謝したい」とクラレンス・アヴァントの名前を挙げている。アヴァントは1990年代にはモータウン(Motown)・レコードの会長を務め、スタックス(Stax)・レコードの売却にも携わった。

【Black Godfather with Quincy Jones】

『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』を見れば分かるが、アヴァントとクインシー・ジョーンズは相棒のように仲が良く、長年変わらぬ信頼関係があったことを垣間見ることができる。クインシーはアヴァントのことを「とにかく顔が広い」と語り、最初の印象を聞かれ「一目ぼれした」とも語っている。ただ唯一、アヴァントがワインに氷を入れて飲むことだけは許容できなかったようだ。

【Black Godfather with Radio】

クラレンス・アヴァントは事業開拓としてラジオ局を買い、1973年に米国で最初の黒人所有のラジオ局となったアバンギャルドラジオ＝KAGB-FMを設立した。当初は順調に運営されていたが、後に破産してしまう。アヴァントも成功ばかりでなく、ビジネスで失敗の経験も味わっていたが、その都度友人達に助けられ救われて来た。そんな運の良さもアヴァントの人柄や人間力の成せる業だったのだろう。

【Black Godfather with Sports】

クラレンス・アヴァントはハリウッドに進出後、後に殿堂入りする当時の人気アメリカン・フットボール選手だったジム・ブラウンを映画の世界に進出させ、「特攻大作戦」をはじめ数々のヒット作品に出演させた。また、メジャーリーグ・ベースボールの名選手で偉大なホームラン・バッターだったハンク・アーロンが、当時のホームラン記録だったペーブ・ルースの714号を抜く間近に、コカ・コーラと巨額なCM契約を結ばせた。ハンク・アーロンは「彼なしでは自分はいない」と感謝の気持ちを口にしている。また、名プロ・ボクサーのモハメッド・アリのキャリアの集大成となるテレビの特番を制作したのもアヴァントだった。



【Black Godfather with Politics】

ジミー・カーター元大統領、ビル・クリントン元大統領、ジョージ・ブッシュ元大統領、バラク・オバマ元大統領の公式及び非公式アドバイザーや重要な資金調達者としての役割も果たし、クラレンス・アヴァントは政治の世界にも影響を与えた。クリントン元大統領は「彼の助言は、どれも私の知る誰のものよりの確だ」と語り、オバマ元大統領も「お気に入りの男だ」と称賛している。アヴァントの娘ニコールはオバマ政権時代にバハマ大使を務めた。『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』には、現在、アメリカ合衆国副大統領を務めるカマラ・ハリスも登場するが、「私には怒鳴らないの、それが自慢よ」と笑顔で語っており、アヴァントの女性への気遣いも感じるシーンだ。

【Black Godfather with wife/Jacqueline Avant】

2021年の師走に衝撃のニュースが報じられた。クラレンス・アヴァントの妻で慈善活動家のジャクリーンが同年12月1日の早朝、自宅で何者かに撃たれて死亡したのだ。1967年にアヴァントと結婚し、2人の子供を授かった。エポニー・ファッション・フェアのモデルをしていたジャクリーンは、若い頃に「源氏物語」に影響を受け、日本の漆器の収集家でもあった。2016年から2018年まで日米婦人会の共同会長も務めるほどの親日家でもあった。愛妻ジャクリーンを失った後のアヴァントの悲痛な思いは計り知れないが、天国で再会して、仲睦まじく過ごしているに違いない。

【R.I.P. Black Godfather】

2023年8月13日、米国ロサンゼルスで92歳の生涯を閉じたクラレンス・アヴァント。アヴァントの遺族、娘ニコールと息子アレクサンダー、義理の息子テッド・サランドス（Netflixの共同最高経営責任者）は声明の中で、「クラレンスはその革命的なビジネス・リーダーシップによって、音楽、エンターテインメント、政治、スポーツの世界で“ブラック・ゴッドファーザー”として親しまれるようになりました。クラレンスは世界を変え、これからも何世代にもわたって世界を変え続けるであろう、愛する家族と、多くの友人や仲間を残しました。彼のレガシーの喜びが、私たちの喪失の悲しみを和らげてくれます。」と述べている。クラレンス・アヴァントの学歴は日本でいう中卒。口は悪いが男気があり、ビジネス面では「誰にも私の邪魔はさせない」が信念で、常に裏方に徹する男だったが、愛くるしい表情や仕草に心の広さや優しさが滲み出ている。Netflix映画『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』のラストで、「今のところいい人生だった」と語り、皮肉を込めたジョークのように「世界一の金持ちになれたら最高だ」と語っている。この作品を見れば、ブラック・ゴッドファーザー＝クラレンス・アヴァントの魅力が体感できるだろう。

Netflix映画『ブラック・ゴッドファーザー：クラレンス・アヴァントの軌跡』独占配信中

2019年製作 / 1時間58分 / ドキュメンタリー

真の指導者であり、音楽、映画、テレビ、政治等、様々な分野における陰の立役者でもあるクラレンス・アヴァントの人生を辿るレジナルド・ハドリン製作・監督のドキュメンタリー作品。ファレル・ウィリアムスとチャド・ヒューゴが手掛けたテーマ曲「Letter to My Godfather」は、2020年度のエミー賞で音楽賞（歌曲部門）にノミネートされた。



【クラレンス・アヴァントのレーベル「サセックス・レコード」と「タブー・レコード」の作品】



ジャスト・アズ・アイ・アム
ビル・ウィザース
(OTCD-6751) [SUSSEX 1971]



エヴォリューション
デニス・コーフィー
(OTLCD-5371) [SUSSEX 1971]



ステイ・ア・ホワイル・ウィズ・ミー +1
シャロン・リドリー
(OTLCD-5361) [SUSSEX 1971]



ドゥ・ホワット・ユー・ウォント・トゥ・ドゥ
ウィリー・ボボ&ザ・ボビー・ジェッツ
(OTLCD-5369) [SUSSEX 1971]



セグメンツ・オブ・タイム +2
セグメンツ・オブ・タイム
(OTLCD-5362) [SUSSEX 1972]



ヘヴィー・ラヴ +1
フェイス・ホープ&チャリティ
(OTLCD-5360) [SUSSEX 1972]



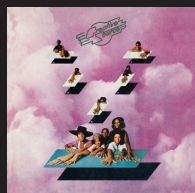
ウィ・ザ・ピープル +2
ソウル・サーチャーズ
(OTLCD-5355) [SUSSEX 1972]



5-10-15-20-25-30 イヤーズ・オブ・ラップ +1
ザ・プレジデンツ
(OTLCD-5359) [SUSSEX 1972]



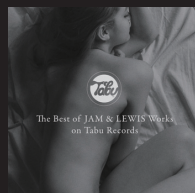
ズレマ
ズレマ
(OTLCD-5367) [SUSSEX 1973]



クリエイティヴ・ソース +2
クリエイティヴ・ソース
(OTLCD-5357) [SUSSEX 1973]



ロネット
ロネット・マッキー
(OTLCD-5370) [SUSSEX 1974]



ザ・ベスト・オブ・ジャム&ルイス・ワークス・オン・タブー・レコーズ
ジャム&ルイス
(OTCD-3663) [Tabu 1980年代]